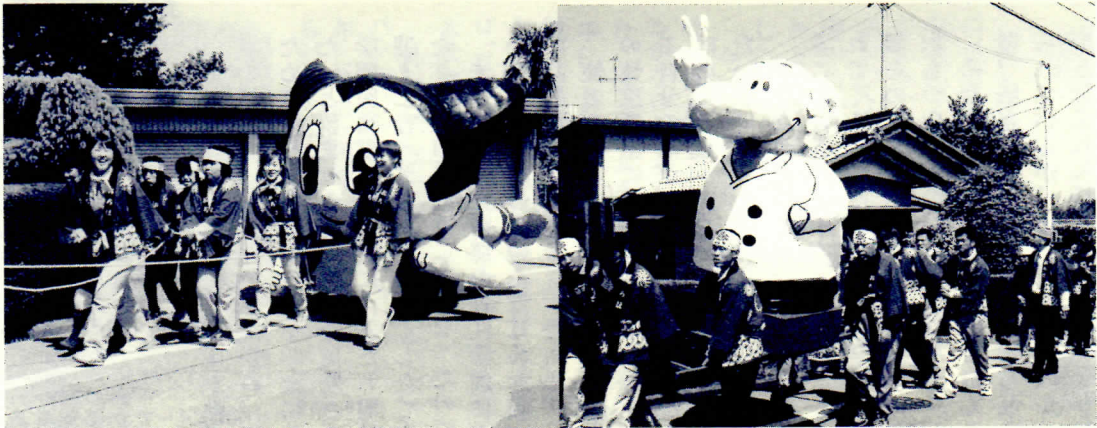
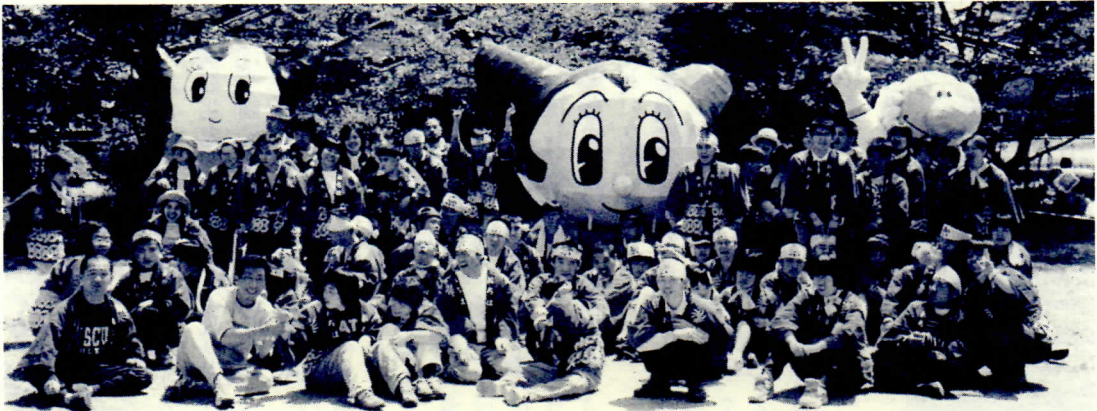




# おちほ

第46号 平成15年6月15日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

## 晴れてヨカッタ！氏神祭



毎年恒例、五月一日は氏神祭でした。昨年は残念ながら雨。今年は晴れますように...とみんなの願いが届いたのでしよう。二・三日降り続いた雨も止み、当日にはからつと晴れ渡った青空が広がりました。毎晩せつせとみこしをこしらえた職員一同、ホツと胸をなで下ろしていたと思います。

今年「鉄腕アトム」が生誕した年というのはみなさん存じだと思います。今年のみこしはそれにちなんで、アトム、ウランちゃん、お茶の水博士を作りました。今年は三体とも例年になく(?)上出来!と思うのは私だけでしょうか...?

ハッピを着てはちまきを巻き、二氣にお祭りムードが高まり、さあ出発! 「ワッショイ、ワッショイ!」職員の声に続いてみんなも元氣よくみこしをかついでいました。グラウンドまでの道沿いには、東寺地区のみなさんや幼稚園児がたくさん見に来て下さいました。みこしを見て「すーい!」「頑張れ」など声をかけて下さり、みんなも一層大きな声で頑張りました。無事グラウンドに到着してから、各施設みこしの発表を行いました。どの施設も工夫を凝らしたもののばかり。なかなかの力作揃いでした。

地域の方々との交流がなかなか出来ない寮生さんにとって、とても良い機会だったと思いますし、楽しい時間を過ごすことができました。ここで忘れちゃいけないお祭りの目的。今年一年、無事健康に過ごせますように...



# 昔々今ふく



理事長 増田正司

「糧莠記」(京都北大路書房再版) 著者 山口武治老を近江学園に迎えたのは、昭和28年8月秋の気配を感じる下旬の頃、新潟県高田市(上越市)から遙々ご不自由な身体ながらお迎えした。

糸賀園長から「玄米食療法」が提唱され、学園の食事が桜沢如一氏指導の「食事療法―食養」をとりいれることになり、導入に先だち「食養」の健康教室が開かれた。教室に山口老をお呼びし、宿痾しゅくおのリユーマチが原因の歩行障害を治療回復し、お元気になつていただくという願いだつた。

お元気な頃志業を説き全国をまわられ、土木技術者の官職にあつたときの上司、近藤壤太郎滋賀県知事をたずねたとき、社会教育課主事の糸賀先生について話された。近藤知事は後に糸賀先生を秘書課長に抜きました。

(NHK出版 糸賀一雄著作集―第一部 I 二人の思師から) 義弟 酒川哲保さん(京都市で教職、戦後郷里佐渡に帰り村の学校教育や青年活動につくされ、京都時代、糸賀、田村、池田の三先生と親交―上記著作集第二部III佐渡から)から糸賀先生の話  
を老はきいていたと思われる。

ある懇談の席で、糸賀先生が熱っぽく山口老の話しや「糧莠記」を説かれ、今は病のため高田市に蟄居ちつきよする老を学園にお迎えしたいと望まれた。同席した岡崎さん(当時学園医務部長)と僕に「君たち明日にでも迎えに行つてこい」とまくしたてられ、ふたりが高田に向うことになつたのである。未知の大津市南郷の近江学園に来ませんかと一週間膝づめのふたりのお願いは失礼で乱暴だつたが。

使者の面目をたててかとりあえず「食養」の健康教室に参加することになった。老はご自分の病が本復するとは始めからお考えはなく、せっかくの糸賀先生の好意に答えたいということではなかつたらうか。

住みなれた所をはなれ遠隔未知へ出発することは誰しも不安と期待がごもごも現われてくるものだが、また在学々期中中の二娘をのこして学業と生活をつづけさせる選択もつらくきついことだつたらう。

糸賀先生はその著書の中でたくさんの先輩、師友に恵まれて学園が作られたと述べられているが、山口老も学園のかくれた友垣としておられたと言わねばならない。

(二〇〇三、五、一〇)

# 昔々今ふく



# テレビクオオ

寮長 山下陽一

## どっちなの？

朝日新聞の家庭欄「あのねー子どものつぶやき」を愛読しておられる方も多いとおもいます。ここには子どもたちが使いこなせる少ないことばで自分の気持ちを表現している様子がよく感じられるのですが、その巧みな使い方に私たちは驚かされたり感心したり笑いこけたりします。

先日(三月二一日付)のこの欄には興味をそそられる一文が記されています。

「ねえパパ、ママは、おばちゃん、お姉ちゃん?」。父は「お姉ちゃんだよ」と答えておいた。

(仙台市 A 4歳)

四歳のAちゃんは、ママについて何をたっぷりさせたかったのかわかりませんが、お父さんとしてお母さんはまだ若く元氣一杯という思いを、おどけ気味に「お姉ちゃんだよ」と答えたのでしょう。

しかし、パパにこの問いを発し

たのはAちゃんの中では新しい世界が次第に芽生えつつある証として、子どもたちの発達のステップを端的に示しているように思えるのです。

## 社会性の芽生え

ひとは成長の過程で様々のものを身につけるのですが、この時期の子どもたちは、自分自身と自分以外の世界が具体的なものによって関係づけられて認識されるようになります。自分と母親、自分と父親、自分と保育園の先生などといったように自分が中心となっている世界です。この時期の子どもたちは、お父さんとお母さんの間の子どもだという理解があいまいな様子です。例えば自分が通っている保育園の担任の先生は「わたし」の先生であって、その先生は保育園の仕事で終えると家庭があつて、子どものおかあさんをしているなどとは想像できないのです。このように直接の自分との関わり合いでしか関係を理解できない現象を児童心理

学では「自己中心性」といっています。Aちゃんは自分の周囲を取り巻くひととの多様な関係に少し気が付き始め、これを父親に尋ねたのが「あのね」のことばではないかと思えるのです。自分と他との関係を「自己中心」の世界から離陸してそれらを比較し違いを見つけたり、共通点を探したりすることは、ことばで考えることが身につけて徐々にでき始めるわけです。

障害がない子どもたちの場合は、「自己中心」的な時期の離陸は遅い早いはあるけれど、集団生活の中でテレビのチャンネルやオモチャなどを自分勝手にして遊んでいると、たちまち仲間からゲンコツが飛んできて、勝手なことをすると痛いめに会うといった体験を重ねます。その中で衝突したり子どもたちだけのルールなどの、「自己中心」的な世界から次第に離陸していくのだらうと思えます。

## 離陸できにくい人たち

様々な理由で心理的発達が留まってしまう場合はどんなことにならぬのでしょうか。

発達段階における「自己中心」

の子どもたちと自閉傾向のある子どもとの間の基本的な違いは、自分以外の外の世界に旺盛な興味をもっているかそうでないかの違いだと思えます。

幼児期ではあまり問題にならなかったことが、障害があるために自己中心性を卒業できず年齢のままに成長すると、周囲の人たちにとって次第に問題行動となつてしまいがちです。ご本人さんは自分もしたいことをしているのだけれども、それに対して周囲からダメがでる。それが何を意味しているかわからないとしたらどうでしょう。ことほどさように大変な世界に住んでいる人たちなのです。

ひとのいうことを聞くとか、順番を待つというようなことを身につける時期があります。その適切な時期の限度を臨界期というのですが、これを過ぎるとご本人さんにも周囲を取り巻く人にとつても大変な負担が生じることになります。

適切な時期にその時期にしかつかめなことを集団の中で身につけながら成長していくこと、これが欠けていると、将来大きなツケとして返ってくるのではないかと心配しています。



初めまして、四月十六日から男  
子棟の職員として勤務させて頂い  
てます。今は日々勉強の毎日です  
に当たりますが事もありますが寮  
生さんの笑顔が私の励みとなっ  
てます。うち素直な笑顔が見られ  
るように寮生さんよい関係を保  
てたいと思います。そして「二  
人」の生活スタイルに寄り添っ  
て、楽しい生活を過ごしてもら  
うために、頑張ります。親御  
さんや先輩方と情報交換をしな  
がら、寮生さんへの対応の仕方  
を学ぶ、卒業後は精神障害者に  
対して必要なスキルを身に付け  
たいと思います。寮生さんへの  
生活支援をさせていただきます。こ  
れからは浅い中での相談援助に  
限界を感じ、私自身いろいろな経  
験を積む必要があと思いました。  
第二の社会人生活を落穂寮でスタ  
ートできる事に感謝し、いろいろ  
な事を吸って心豊かな支援者に  
なっていきたいと思います。



初めまして、今年の四月  
から女子棟で働かせてた  
だこころになります。  
伯川、美晴と申します。  
卒業し、保育園で働いて  
いたのですが、ずっと知  
識の障害を持つ方々に関わ  
る仕事をしたいと思ってい  
ました。念願が叶い、落  
穂寮に就職ができました。  
とても就職ができていま  
す。

働き始めて一ヶ月が経  
ちますが、まだまだ戸惑  
うことや不安なことでい  
っぱいです。短大では、  
幼児教育について学ん  
だというこもあり、  
寮生さんへの対応の仕方、ケ  
アなど、わからないこと  
が多です。先輩の職員さん  
に指導を受けていただき  
ながら勉強中です。また、仕事  
の順序など要領が悪いの  
で、皆さんと要領をおかけし  
ています。頑張つて少しも早  
く仕事を覚え、自分自身の気持  
ちにゆだねを持つことに寮生  
さんに対しても笑顔で関わるこ  
とができるようになりたいです。  
落穂寮で毎日の生活を楽しく中  
通に過ごせるよう、寮生さんに快  
心に考えた対応やケアをしてい  
たいと思います。



# 新人紹介

はじめまして、今年の四月  
から落穂寮の女子棟で働くと  
させていただきます。今年度  
文化中野香理です。私は、滋  
賀短期大学人間福祉学科一  
年目の新人職員です。  
開福祉専攻を卒業し、今年社会  
人一年目の新人職員です。  
落穂寮に就職してきました。  
働き始めてもう一ヶ月が経ち



寮生さんへの対応  
の仕方や援助を  
する上で、働い  
たことを学び、大  
変さを実感して  
います。働き始め  
ては、色々とわか  
りませんが、わか  
らないことがあ  
ると思います。  
先覚職員さん  
には、色々とお  
話をして、色々と  
お話を聞けるこ  
とが多いです。  
寮生さんにも先  
覚職員さんにも  
迷惑をおかけし  
ますが、精一杯、  
何事も真面目に  
がんばります。  
よろしくお願いいたします。

# たべまくりジモン

4月6日から落  
穂寮で臨時職員と  
して働かせていただ  
いている村上和香  
です。なぜ、臨時  
職員なのと思わ  
れている方もい  
らっしゃると思い  
ます。説明してい  
たいので、落穂寮  
で働いている以  
外にキリスト教  
教員としての職  
務も兼ねていま  
す。保育科保育  
介護コースの2回  
生で週に2日学校  
に通っています。  
働き始めて一  
か月が経ちました  
が、まだ仕事に慣  
れず職員の方々の  
生活や寮生さん  
への対応がまだ  
慣れません。毎日  
が失敗や悩みま  
す。寮生さん一人  
一人の特徴や、日  
々の職員さんへの  
対応や、寮生さん  
の生活や、寮生  
さんへの対応の仕  
方など、わからない  
ことが多く、先輩  
職員さんや先輩  
職員さんからの指  
導やアドバイスを  
いただき、仕事を  
こなしています。  
寮生さんへの対  
応の仕方や、寮  
生さんの生活や、  
寮生さんへの対  
応の仕方など、わ  
かれないことがあ  
ると思います。  
先覚職員さん  
には、色々とお  
話をして、色々と  
お話を聞けるこ  
とが多いです。  
寮生さんにも先  
覚職員さんにも  
迷惑をおかけし  
ますが、精一杯、  
何事も真面目に  
がんばります。  
よろしくお願いいたします。





お花見遠足  
今年こそ…  
今年も?!

四月二十日(日)男子棟はお花見遠足に行きました。当日は天気も良く楽しい…と書きたかったのですが、今年も雨…。ん、待てよ?たしか去年も…(第43号がある方は見て下さい)なんと二年連続の雨!本当に運が悪い事!

「じゃあ延期すれば?」

とも思いましたが弁当はもう注文してしまつたからそう言う訳にもいかず、職員は考えました。雨の影響がない場所…そこで出てきたのがこんぜの里バンガロー村。電話をすると空きもあつたので、そこに決定!マイクのロバス、キャラバン、マーチの



▲お弁当おいしいな。

◀来年は、晴れますように。



三台でバンガロー村へ。外は雨が降っていましたが、バンガローなので大丈夫。お弁当を準備していただきます。寮生さんはおいしそうに食べてくれました。お弁当を食べてからは、それぞれの車でドライブをして帰りました。

バンガローでのお弁当も雰囲気があって良かったのですが、やはり桜を見て、外で食べたかっただけです。来年こそは晴れて!お願いします!

親子合同  
飯盒炊きさん  
五月晴れすぎ!

五月三日(土)のみどりの日、男子棟では帰省日という事もあり、親子合同飯盒炊きさんを行いました。当日は見事なまでの晴天!(お花見遠足とは大違い)五月晴れとはこんな日の事かとはかりの天気でした。

午前中は飯盒炊きさんの準備をしました。テーブルやイス出しは寮生さんも手伝ってくれました。それから担当の職員が料理の準備。メニューはみんな大好きなカレーライス。出来あがつてくると、男子棟の方に、「準備できましたー。」



▲本当に暑い一日でした。

◀親子で食べると、よりおいしいです。



の声がかかりいざ移動!と思つたら暑い。棟にいて陽射しがなかった為か外が暑い! たまらず帽子を用意してかぶってもらつたり、タンスから半袖がある人は出して着てもらいました。

体育館横にて昼食。帽子は取らないと行儀が悪いのですが、暑すぎてそれもできずにそのまま食べてもらいました。外は暑いわ、カレーも熱いわでみんな汗だくになつて食べました。五月晴れの中、楽しい時間を過ごしました。



私たちが雨女？

今年も例年通り4月20日にお花見遠足は計画されていました。

今年は、桜の開花もそれほど早くなく、八重桜ならゆつくりと見ながらお花見ができるだろうと思っていたのですが、残念ながら前日から降り始めた雨は止まず、より一層降り始めたので、女子棟はあえなく中止になってしまいました。

ザーザーと降りしきる雨を見て、寮生さんたちも半分諦めていたようで、中止の事実を伝えてもそれほど気落ちした様子は見られませんでした。せつかくの外出がなくなったため代わりとはなんですが、午前中はみんなが大好きなマイクロボスド

▼クラス団らん昼食会



▶雨でも楽しいぞ!!

ライブへ行きました。

ドライブでは、日々生活の中であまく感情を表わせない寮生さんも車が走り始めたり、ジュースを飲むことができる時には、満面の笑みで手を振ったりして喜んでくれます。

雨が降ってしまったら元も子もないこの行事。外で食べるはずだったお弁当も女子棟のホールでいただくことになりました。新しいクラス編成になったクラスもあり、新人職員にとっては初めての行事でまだまだクラスの親睦が深まっていなかったのか、各クラスで輪になって楽しくおいしくお弁当をいただきました。

寮生さんにとつたら、いつもより狭いところで、いつもよりおかわりも少なく、やや物足りなさを感じたかも知れませんが、担任や職員との関わりは十分に持つことができ、これはこれで楽しい昼食会だったように思います。来年こそは晴れて屋外で花見をしたいですね。



リベンジ失敗!!

待ちに待った帰省日&飯盒炊さんの日です。寮生さんの頭の中には、一年前のこともしっかりと記憶に残っており、5月の帰省には飯盒炊さんがついてくることを覚えていました。朝から「今日、カレー食べる。」とずっと言っている寮生さんもあるほどでした。

今回はお花見遠足とは違って絶好の飯盒炊さん日和で、帽子とタオルがないとやっていられない状態でした。暑さのあまり、作っている最中に、日陰に移動する寮生さんや親御さんもおられました。外に出てきた寮生さんも日陰を探してウロウロ、見つけたらゴザの上でゴロゴロする状態でした。

昨年、水分が多すぎた為、シャバ

としたりしたカレーだったので、今年こそは(何年同じことを言っているだろうか)とリベンジに燃えて作



▲お母さ〜ん早く食べさせて!!

り始めました。

今年は、保護者の方の参加が例年より寂しく、作っていたが甘い気満々でいた職員はあてがはずれてしまいました。なんとか人数が揃って来たところで一緒に作り始めたのですが、暑さのあまり具を入れる順番を間違えたりし、出来上がったカレーを食べてみると、お世辞にもおいしいとは言えないものでした。

しかし、寮生さんは外で食べる雰囲気にはだまされてか、いつもより食欲旺盛でびつくりさせられました。

本当につくづくこの行事をして感じるの、食べ物のおいしさがすべてではないこと。親子、職員と一緒に楽しく食卓を囲むこの雰囲気寮生さんは感じ取ってくれているんだなと思えました。

カレーの出来はというと…結局今年もシャバシャバでした。





# 『第53回目の開寮記念日』

表紙でも触れましたが、5月1日は氏神まつり、そして落穂寮の開寮記念日でもあります。今年で落穂寮は53歳になりました。石部町へ南郷から昭和45年に移転してから33年、人に例えるなら人生の半分をこの石部町で過していることとなります。これまでこの石部町でやってきました。皆様のご理解と様々な形でのご支援、ご協力のおかげで感謝の言葉もありません。引き続きこれからもよろしくお願いたします。寮生職員共々、地域に愛される落穂寮になるよう頑張っていくつもりです。さて、この落穂寮の



みんな一食べてるか～い？

誕生日を氏神まつりが終わってから体育館を会場にしてみんなでお祝いをしました。テーブルを並べ飾り付けをされた会場での昼食会、メニューはすき焼きです。職員が準備をする中、気の早い寮生さん達が何名かやって来て会場をウロウロ。鍋の中を覗き込んでニコニコしていました。さすがに毎年のことですから、これから何が始まるのかよう分かっているでしょう。会場の用意も整い全員が集合。寮長のあいさつもありましたが、お話の間も寮生さんの目は寮長よりもお鍋の中身の方へと注がれていました。寮長のお話も終わるとみんな「いただきます」「しつかりあいさつをして食べ始めました。中には普段自炊などしない職員など聞いて、不安な手つき、不確かな味付けですき焼きを作っていました。寮生さんは全く苦にせず、お肉に野菜にどんどん平らげていきます。またすき焼きだとご飯がすすむのか、みるみるご飯が減っていき、最後にはお炊事の方から「もうありませーん」の悲鳴が。このまま夕食分のご飯まで食べ尽してしまうのではないかと、う勢いでした。いつもは太り過ぎ防止のために食事制限をしてもらっている



寮生さんにもこの日はお腹いっぱい食べてもらってかとても満足そうな様子。デザートにはいちごが出ましたが珍らしく残ってしまいました。みんな余程お腹いっぱい食べたでしょう。そんなこんなで開寮記念日昼食会も一時間半ほどで終了し、その後はいっぱいになったお腹をさすりながらのんびりと過ごしてもらいました。楽しそうに食事している寮生さんの姿を見てみると職員の心も満腹になり一緒に楽しい時間を共有することができよい一日になったと思います。こんな落穂寮をこれからもよろしくお願いたします。

は～い、食べてま～す。

## 泉

今年度、措置制度から支援費制度に変更になりました。利用する側も、それを提供する側も、準備不足からあつたふたした状態で、何が何だかわからないうちにスタートとなった気がします。

しかし、それはハード面での話で、現場での日々の関わりも、寮生さんを取り巻く日常にも何ら変化はないのです。今まで通り、出来る事を、きちんとした考え方で提供するだけですが。

大切なのは、最も大切なのは、支援する人、その人自身の価値観であり、人間性だと思います。大いに磨きましょう。

### 木

### 言

人は自分の言動に、自ら責任を持たなければならぬ。

なぜなら、全てのものを意のままに支配しようとする、唯一の生き物だからである。